

令和4年度 農地中間管理事業 統括評価票

山口県農地中間管理事業評価委員会

区分	評価項目	評価値			特記事項
		A	B	C	
1 事業実績	(1) 集積実績			1	目標に対する達成率は28%となる。
			4		9年間の平均転貸は842haとなり、77%の実績となる。担い手への農地集積実績は前年に続きやや増加している。目標達成率は約28%と目標未達であるが、全国的にも進捗は良好である。
	(2) 出し手への対応	1			過去4年間で最も高い実績であった。
			4		令和4年度152haと最近4年間で最も貸出希望農地が多かった。農地を貸し出さない理由について、インタビューやアンケート調査等を行うと良い。
	(3) 受け手への対応		5		令和2年度563ha、令和3年度603ha、令和4年度647haと貸付面積の向上がみられ、目標未達ながら全国的にも進捗は良好である。ただし、借受希望の新規登録件数と農地面積はやや減少傾向にある。
(4) マッチング		1			所有者不明農地の貸付けは良い取り組みである。
			4		出し手と受け手の面積推移をみると、ほぼ順調に進められている。
2 事業実施方法	(1) 事業推進体制	5			農地集積推進員が13名から21名へ大幅に増員され、現地での活動体制が強化されていることを評価する。これを踏まえた結果については、今後共有頂きたい。
	(2) 県・市町・JAとの連携	1			県・市・JA等との連携も強化が見られる。
			4		更なる連携強化を期待する。特に「担い手育成」は重要課題。
	(3) 現地での調整		5		例年と同様に、農地集積推進員により現地での活動が精力的に実施されている。
	(4) 事業の啓発活動（農業者への周知活動）		5		現地の農家の人々への啓発活動が今一つの感を受ける。潜在的な受け手を明確にして、もしそれが若い人ならYouTubeやSNSの活用も検討されると良い。
	(5) 公募に応じた者などの受け手ニーズへの対応	1			
			4		例年と同様に、順調に進められている。
	(6) 「人・農地プラン」への関与等		4		岩国市では30地区と最も重点地区が多いが、集積面積の効果が低い。
	(7) 基盤整備との関係			1	多くの重点地区が設定されているが、担い手への集積面積は減少傾向にあり課題が残る。
2				69地区をモデル地区と定め、重点的に実施されたことは評価できる。基盤整備事業は農地の集積と貸付に極めて効率的であり、多くの成果が得られている。	
(8) 新規就農者や企業への対応		3		例年と同様に取り組まれている。	
	4			農地の賃借料の助成や優良事例の取りまとめは良い取組である。参入企業への農地集積実績があり、地域で問題が生じない範囲内で、今後も積極的に対応すること。	
(9) 5年度に向けた推進体制・推進方法の改善		1		新規就農者等の推移をみるとまずまずの結果が出ている。	
	1			農地集積推進員の更なる増員が計画されており、現地活動の強化が期待できる。	
[総合評価]			4		農地集積推進員の増加やタブレットの導入、更には規程の改正等への積極的な対応がみられる。
			5		集積実績で評価すると厳しいが、全国的にはよく頑張っている。
					概してほぼ順調に対応されているものと理解している。集積後の担い手の運営状況についても共有頂けるとありがたい。
					農業、農地を取り巻く現状は年々厳しくなると予想される。山口県は中山間地域が多く、高齢化の比重が高い。集落から地域へ連合体をどう編成していくかが将来大きな問題となると思われる。今回特筆すべきは優良事例が3件報告されたことである。
					地域によっては困難な状況もあるが概ね順調。取組体制の強化による今後の成果に期待する。 適正な事業運営に努められた。

(注意1) 評価値A・B・C欄は、評価委員5名の評価状況を人数で記載している。

(注意2) 評価値のAは「適正である又は順調である」、Bは「ほぼ適正である又はほぼ順調である」、Cは「取り組みを強化、改善を要する」を表す。